

# 京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

2頁 カトリック青年アジア体験学習

3頁 イエスの道の完成 —聖書講座—

発行 京都司教区  
責任者 村上透磨  
京都市中京区河原町  
三条上ル  
カトリック会館  
FAX  
075-211-3041  
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。  
TEL・FAX 0794-31-8601



開かれた関係  
人間は、成長するにしたがって、歩けない状態からはいはいするようになります。その後、二本の足で立てるようになり、やがては跳んだりはねたり、全力で走ったりで走るようになります。

私たちの信仰や祈りの内容、そして教会共同体も成長するにしたがって、未分化の状態から自分でものごとを判断し、自立し、やがては仲間を作り、連帯や協力が自由にできるようになります。

この共同体の成長にしたがって、自分の所属する教会だけの世界観から視野が広がり、お隣の教会や、もうひとつ隣の教会と協力することを学び、相互に交わり協力する仲間である関係「開かれた関係」が芽生えています。この新たな関係が、共同宣教司牧ブロックとしてのひとつの動きとして定着することが、これから共同宣教司牧推進の課題のひとつといえます。

(写真は九月十三日に行われた講演会のスナップです。本文五頁)

11  
2003

## カトリック青年アジア体験学習

去る八月十七日から三十日に第二十三回アジア体験学習が行われました。参加者は青年三名、そして同行司祭二名の計五名でした。フィリピンという言葉・生活など全てが日本とは違う場所でさまざまなことを経験することができました。

前半はマニラに滞在し、フィリピンの現状についてお話を聞き、スマートの見学をしました。

中盤にはインファンタに場所を移し、農漁村でのホームステイを一週間体験しました。このプログラムのメインともいえるホームステイは参加者に多くの課題を与えてくれました。

二十七日にインファンタ高位区新司教座式に参加、二十八日に全体の振り返りをしました。参加した青年三名の感想文を紹介します。

**新井由郁**

私はこの体験学習に参加して多くのものを見たり、感じる事ができました。今、そのことを幸せに思っている。フィリピンでは、日本と違い、

国内での貧富の格差が大きい。例

えば、都市部のエリートの生活とスラム街の生活は驚くほど異なる。これは私たちが行ったインファンタにおいても同様である。しかし

私はスラム街を見ても農村地区にホームステイをしていても「貧しい」とは思わなかった。確かに経済的な面から見れば決して豊かではない。けれども彼らの「心」はとても豊かであり、目が輝いていた。生きていくために一番大切なものを知っていると私は感じた。

今回、フィリピンの人々との交流の中で私に一番欠けていた「心」の部分を学ぶことができた。そしてこれからフィリピンで得たものを多くの人に伝えていきたい。最後に、この機会を守えてください、支えてくださった全ての方々に感謝したい。

**野村嘉信**

まず言いたいことは今回のアジア体験学習で感じた事全てを言葉で表現する事は出来ないということです。それは僕がこの旅を五感を通じて感じ取り、言葉による解

釈では過ごしていないからです。実際、言葉によるコミュニケーションがあまり図れませんでした。しかし、言葉が通じない分経験できた事もたくさんありました。ホームステイ先では、特にそうした経験の方が多いと感じます。言葉を介さない分、現地の人々の本当の生活を肌で感じ取る事が出来ました。

もう一つ僕が肌で感じた事は、人々の生き方です。人々は日本人のように忙しく生きていません。各々が自分のペースで生きています。そこには周りの人の目を気にするだとか、自分だけ良ければよいなどの考えはなく、人々は助け合って生きていく事が最良の生き方だと心得ているようでした。そして、皆自分の生活に誇りを持つて生き、人々の間での沈黙の秩序をしっかりと守り、責任感を持つて暮らしていました。今僕の持っているもののさしではとても測りきれないエネルギーがフィリピンに溢れていました。

**井上太一**

まず言いたいことは今回のアジア体験学習で感じた事全てを言葉で表現する事は出来ないという事です。それは僕がこの旅を五感を通じて感じ取り、言葉による解釈では過ごしていないからです。実際、言葉によるコミュニケーションがあまり図れませんでした。しかし、言葉が通じない分経験できた事もたくさんありました。ホームステイ先では、特にそうした経験の方が多いと感じます。言葉を介さない分、現地の人々の本当の生活を肌で感じ取る事が出来ました。

や友達以外に失うものはないから思って何かにチャレンジしてみようと思っているからかもしれません。それに自分たちみたいなよそ者が入ってきているのに、嫌な顔をせずに気軽に声をかけてくれる。最近の日本では、人は人、自分は自分と思って見てみぬふりをする人が多い。それに、日本人は家やお金を失ったり仕事がないと恥、というプライドがあつたりして、何もできない気がする。もつと人生の中でチャレンジしてもいいと思う。

インファンタのホームステイ先では、最初誰が家族かわからないくらい村の人みんなが仲良しだった。自分の子じやなくても悪い事をしたら注意をしてあげている。それは、親同士信頼しているから子どもをまかせられるのだろう。畑の草刈の時は、村の人皆で本当の家族みたいに協力し合って一緒にしていた。自分にも親切してくれたし、たまに冗談も言い合った。自分も村の一員になれたのかな? この二週間は一生の思い出になる二週間だった。いつか必ずまたフィリピンに戻りたい。

聖書講座シリーズ「マルコ福音書を読む」7／16・17

## イエスの道の完成（神の国の実現へ）

沼野尚美氏



マルコ十四

章一節～十五  
章四十一節ま  
での個所を一  
言で言えば

2、何故、イエスは受難の道を継  
続できたのか

イエスは先に見た苦しみから逃  
げないで十字架への道を歩まれま  
す。イエスが受難の道を継続でき  
た一つは友の存在です。成すべき  
ことをやり遂げるにはそれを理解  
し、いっしょに応援してくれる友  
が必要なのです。イエスは十字架  
に掛かる前にベタニアに行き、友  
であるマリア、マルタ、ラザロの  
家に行かれました。そして、イエ  
ス自身が自分の使命をよく理解  
されていました。苦しみから逃げ  
出さず、継続するには目標をはつ  
きり持ち、ゴールの先の喜びがな  
ければできません。さらには神への  
信頼です。イエスは信じること  
からくる安堵感をもちらながらこの  
受難を遂行していきます。

1、イエスの苦しみ  
イエスの全人格的な苦しみを見  
ていくと、身体的苦しみ（十字架  
上の苦しみ）マルコ十五章二十五  
節。精神的苦しみ（弟子の裏切り）  
マルコ十四章四十三節。社会的苦  
しみ（罪人というレッテル）ルカ  
二十二章三十七節。靈的な心の苦  
しみ（孤独の苦しみ）マルコ十五  
章三十四節。この四つの苦しみが  
上げられます。

3、何故イエスの受難が私たちに  
とつてありがたいことなのか  
罪人も神の御前に近づけるよう  
になりました。マルコ十四章三十

六節に、最後に私たちが願うこと  
ではなく御心にかなうことが行わ  
れますようとに書かれています。  
そして、イエスは十字架上で「父  
よ私の靈をみ手にゆだねます」と  
言われます。これは自分の意志に  
反することでも神の意志に従うと  
いう告白をともなった祈りである  
と同時に、私たちも「父なる神」  
と言えるようになったのです。ま  
た受難により、傷ついた心がいや  
され、怒りをもっている心が静め  
られるという心の平和の祈りの道  
が開かれたのです。さらに死を超  
える永遠の命、天国の存在、再会  
という希望を与えて下さいました。

### 4、私たちの人生とイエスの人生 を重ねてみると

私たちの人生を完成させるため  
には、私たちの苦労とどのように  
向きあうかということです。信者  
になつても苦しみは続きます。し  
かし、イエスはむしろ苦しみを  
「益」にしていく人生へと導いて  
くださるのです。苦難との向きあ  
い方に変化がおきます。復讐する  
ことではなく、父なる神に信頼し  
てひれ伏し、苦しみには必ず意味  
があるということを心に留めるこ  
とです。そうすれば必ず神によつ  
て悟らせていただけます。苦難を  
誰かのために捧げ、積極的に「益」  
になるものとして取り扱い、自分  
の苦労に価値を与えてあげること  
です。そうすればこの苦難から円  
熟した成長、人格的成長がありま  
す。苦難の経験は、やさしさ、寛  
容、人を受け入れること、謙虚さ、  
忍耐を学ばせます。苦しい経験か  
ら使命が見えてくるのです。

### 5、キリストの道をともに歩みま しょう

受難を経験されたイエスは前と  
同様の顔ではありませんでした。  
そこにはいやされた、成長した自  
分があります。苦労したゆえに、  
より自分自身に磨きがかかった人  
生を歩くことが出来るのです。で  
すから、苦難は避けられないが苦  
難を経験すればするほど、人の中  
で慰めを運べる人になりたい、よ  
り柔和になってイエスとともに歩  
めるようになりたい、イエスと絆  
を深くできる者になりたいと思う  
ことがあります。私たちの苦労は  
幸せを運ぶための大きな要因な  
です。本当に幸せを運べる人は、  
苦労した人です。だからイエスは  
人に幸せを運べ、人の心をいやせ  
るのです。

福音センター養成コース案内  
 「生きいきした教会づくりのために」研修会

福音センター  
 ニュース

# ひとつになろう キリストが まんなか

主よ、あなたは交わりを、わたしたちが結ばれることを  
 お望みになっておられます。

罪によって深まった、人と人との深淵をこえて、  
 父なる神とあなたが一つであるように、  
 主よ、あなたは、わたしたちを一つにしてくださるのです。

（ミシェル・クオスト『神に聴くすべてを知っているなら』より）

「教会は本当に一つなのだろうか。人と人との交わりに傷つき、意見も思いもバラバラで、いったいどこに教会の一致があるのだろうか。」だれもが一度はこんな疑問をもつのではないでしょうか。

そんな思いを持ち寄り、「教会の一致」についてともに考え、祈りあいませんか。三人の信徒の体験発表をもとに、様々な角度から分かち合い、学びます。

**日 時** 2003年11月22日（土）午後2時～23日（日）午後4時（日曜日のミサあり）

**会 場** メリノールハウスとノートルダム修道院 〒520-0106 大津市唐崎1-4-1  
 （JR湖西線唐崎駅下車 徒歩10分）

**講 師** 大塚司教、福音センタースタッフ

**募 集** 25名（宿泊者）および通いの方15名

**申込み** 11月12日（水）までに

郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、

参加費 6,000円（通いの方は3,000円）を下記へお振り込み下さい。

郵便振替口座 00920-4-161844

「カトリック福音センター養成コース」宛

**問い合わせ** 〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

Tel 075-822-7123 Fax 075-822-7020

E-mail [fukuin@kyoto.catholic.jp](mailto:fukuin@kyoto.catholic.jp)



カトリック福音センターでは、教会の教えをさらに深く学ぼうと、去る9月13日(土)、『カトリック教会の教え』の第一部(「キリスト者の信仰」)の執筆者である岩島忠彦師(上智大学教授・イエズス会)を招き、「新要理書『カトリック教会の教え』に親しもう」と題した講演会を河原町教会で行いました。当日は信徒を中心に約200名が参加。長時間の講演にもかかわらず熱心に聞き入っていました。以下はそのときの参加者の声です。

★ 岩島神父様がいらっしゃると聞いてびっくりし、とても楽しみにしていました。講演は難しから、と少し心配でしたが、とてもわかりやすかったです。キリスト論・教会論の講座を受けていたせいでしょうか。神父様は、伝承に根ざした自主的な信仰を強調されました。わたしも信徒のはしぐれとして「本当に信じている」と言いたい、だからこそ「知っていきたい」、「関わっていきたい」と思いました。(N.M 西院教会)

★ 企画としてはよかったです、長時間にわたる講演会なのに書く場所もなく、座り心地もよくない会場はきつかったと思います。岩島師の本は、人間論的視点で書かれていた点はよかったです、表現のあいまいさが気になりました。司教団が認可された権威ある教えであるなら、もう少し明瞭に書いてほしかった。それから研修会の持ち方としてもう少し工夫がほしかった。事前に読む箇所を指定しておくなどして、参加者の意識を啓発しておく必要があると思いました。(O.Y 高野教会)

★ 講演は、「キリスト者の信仰」(『カトリック教会の教え』第一部)を中心に行われ、あっという間に終わりのときになりました。お話を聞く中で、「信仰の遺産」を伝承することが、すべての信徒に求められていることを、あらためて実感しました。そのためにも、四人の執筆者を中心多くの方々の長年の熱意と努力によって発刊されたこの厚い本を、目次や巻末の索引を参考に、感じたところから読んでゆけばいいし、また読みたいと思いました。講演に行けたことはまさに恵みでした。ありがとうございました。(T.K 田辺教会)

★ その他、内容の解説を「もっと聞きたい」という意見が多数あった一方、教会に脈々と伝えられてきた教えの内容を「子供たちに伝えていかなければ」という声も聞かれました。信仰の遺産を伝えていく重要性を改めて感じられた方も多いかったのではないでしょうか。

お  
知  
ら  
せ

説教 北村善朗師  
地区協議会から

福音センターから

◆養成コース▼祈りII 7日(金)

16時~9日(日) 15時半 唐崎ノートルダム修道院▼研修会 22日(土)

{ 23日(日) 本文四頁  
教区委員会から

◆聖書委員会▼聖書深読 8日(土)

10時 中川博道師 河原町会館六階

◆典礼委員会▼主日のミサと聖体贊美式第一日曜日 17時半 河原町教会  
◆信仰教育委員会▼聖書を祈る—青年のための一 日黙想会 — 24日(振休) 会費五百円 場所 聖ドミニコ女子修道院 申込み FAX 075(222)25573

◆聖ドミニコ女子修道院▼みことばを聴こう 「みことばと聖ドミニコ」 1日(土) 14時 講師 Sr 安達 対象 青年男女 会費三百円 申込み電話 075(233)120 17 Sr 安達

◆京都女子カルメル会修道院▼9日(日) 13時半 三位一体のエリザベト—永遠の今を生きる— 講師 伊従信子氏 15時ミサ 司式・

修道会から

◆ロック・小教区から

◆北白川教会▼チャリティーコンサート「天使の楽器たちと共にクリスマスを奏でる」 V

(土) 17時 入場料二千円 (当日 12月13日)

◆京都女子カルメル会修道院▼9日(日) 13時半 三位一体のエリザベト—永遠の今を生きる— 講師 伊従信子氏 15時ミサ 司式・

こんにちはシスター

聖心のウルスラ宣教女修道会  
三雲修道院

写真上段右より Sr 安部、Sr 畠山、  
Sr 江藤、Sr 松本、Sr アルビーナ、  
グルボブラの会、ホーチミン市ス  
トリートチルドレン友の会  
野瀬、Sr フランチエスカート



できましたが、その事業を本会に委託され、九州、福岡から四名のシスターが来て、始まりました。その後、入所児童の成長に伴い生じたニーズに応え、一九八一年、身障者療護施設「三雲カトリックの家」に改名し、続いております。

現在シスターは九名(二名はイタリア人)で、施設長、事務、栄養士、介護、生活支援員として、食事、入浴、排泄介助、マット編作業、クラブ活動にと全職員と心を合わせて彼らの生活を支援しています。とは言え、彼らから受け

る恵みは多いです。  
福祉の分野も企業化傾向にあります、主のみ言葉「私の兄弟であるこれらの中でも小さい一人には私は私にしたのである」を心に一人一人を兄弟と思い、大切にし家庭的雰囲気の中でキリストの愛の実践に努めています。

聖心のウルスラ宣教女修道会はイタリアのバルマで生まれ、イタリア、オーストラリア、フィリピン、台湾に広がる修道会です。日本には、福岡に本部、宮崎県延岡市、東京、三重県とあり、短大、高校、幼稚園、療護施設、教会での使徒職をしています。

施設が地域に開かれたものであり福音提供の場でありますように。『神のより大きいなる栄光のため』私達の活動と祈りがひとつになり「燭台の上に置かれた輝く灯火」ありますように願っています。

三雲修道院は、一九六五年、メリノール宣教会のスタイルック神父様が尽力されて、心身障害児施設「三雲カトリック児童園」が

(日) 17時 大津教会  
教育関係施設から

- ◆ノートルダム女子大学▼ND祭 1日(土)～3日(祝)
- ◆聖母教育文化センター▼日曜巡礼の旅 近畿のキリストの遺跡―京都キリストン時代の牢屋敷跡 9日(日) 13時 四条大橋、13時半 フランシスコの家 指導者三俣俊二名譽教授▼「伏見学2003」 8日(土) 「千年の都と鴨川」、22日(土) 「秀吉・家康と伏見」場所 聖母女学院短期大学 受講料無料▼いずれも問合せ075(643)2320
- ◆JOC▼京都働く人の家、滋賀働く人の家 問合せ090(807)1831 13時 西院教会
- ◆おてんとうさんの会▼28日(金) 30日(土) 14時 河原町会館六階
- ◆希望の家▼バザー「心の花がある街を」9日(日) 9時(衆議院選挙投票日となつた場合は、16日に変更します) 即売・模擬店・抽選会・文化祭・アトラクション他 問合せ075(691)5115
- ◆京都カナの会▼11月はお休み
- ◆京都カトリック混声合唱団▼練習

諸施設・諸活動から

来年度年間予定

一月号に二〇〇四年の年間予定を掲載します。締切11月20日(木)までに、「教区時報宛」と明記して、FAX075(211)3041または、henshu@kyoto.catholic.jpにお願いします。

はつきり確定していない場合は、予定としても掲載いたします。内容によってお問い合わせする必要がある場合もありますので、ご連絡者も明記下さい。(年間予定のお願いは教会・修道会、学校・施設・諸団体などに個別にご依頼いたしませんので、お願いします。)

習日第2日曜14時、第4土曜19時 河原町会館六階ホール

『なつちゃんとぼく』  
梅田俊作・佳子 作・絵  
(岩崎書店)

- ◆京都キリストン研究会▼定例会 23日(日) 14時 河原町会館六階ホール
- ◆コーキュレステ▼練習 第2、第4、第5木曜日10時 河原町会館六階ホール
- ◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会15日(土) 13時半 フランシスコの家
- ◆フランシスカンズ関西▼22日(土) 13時半 フランシスコの家
- ◆聖ヴィンセンティオ・ア・パウロ会▼河原町協議会9日(日) 13時半▼京都中央理事会23日(日) 13時半 河原町教会
- ◆二金会▼第一金曜日10時15分 時45分 九条教会ホール
- ◆糠みその会▼例会27日(木) 19時30分 河原町会館六階
- ◆レジオ・マリエ▼コミチューム第3日曜日 河原町会館六階
- ◆心のともしび▼11月番組案内 \*テレビ・主な放送内容\*

は、今年の七月号で三冊紹介しましたが、これは、もう一つの作品です)

(梅田俊作・佳子さんの作品は、今年の七月号で三冊紹介しましたが、これは、もう一つの作品です)

この話は、実話から作られたものと聞く。この絵本を読みながら聖書を読む。絵本にも豊かな福音のメッセージがあるのであります。

同走者キリストを想う。同感者パウロを想う。苦しみの共感者である、あなたを想う。

ぼくはある決心をした。ぼくはふとつちょで、のろぶたくさん走ることにした。それから一ヶ月。となりの村でマラソン大会が

ぼくはある決心をした。ぼくは転車をやめて、学校から家まで走ることにした。それから一ヶ月。となりの村でマラソン大会が

はつきり確定していない場合は、予定としても掲載いたします。内容によってお問い合わせする必要がある場合もありますので、ご連絡者も明記下さい。(年間予定のお願いは教会・修道会、学校・施設・諸団体などに個別にご依頼いたしませんので、お願いします。)

あった。ぼくは、それに参加することにしたのだ。ぼくは走る。

ナッシュチャーファイト ナッシュチャーファイトと自分をはげました

がら。ぼくがゴールに着いたとき、もう誰も居なかつたけれど、家族の人々が待つてくれた。

# 大塚司教の 11月のスケジュール

- 2日 (日) 衣笠墓参 14時  
 3日 (祝) 京都ウォーカソン  
 4日 (火) 青少年委員会 14時  
 5日 (水) 中央協機構改革委員会 15時  
 6日 (木) 中央協常任司教委員会 10時  
 9日 (日) 司教ロック訪問 (桑名教会)  
 10時  
 11日 (火) ~ 13日 (木) 日韓司教交流会 (長崎)  
 14時  
 16日 (日) 滋賀地区ラテンアメリカ共同体堅信 (草津)  
 18日 (火) 国際協力委員会 10時  
 大阪京都合同司教顧問会 15時  
 20日 (木) 司教顧問会・責任役員会 10時  
 23日 (日) 司祭評議会常任委員会 14時  
 教区司祭追悼ミサ 16時  
 半  
 22日 (土) 福音センター養成講座  
 教区創立記念日ミサ  
 (河原町) 10時  
 三重地区ラテンアメリカ  
 謹んでお詫びいたします。

## 編 集 部 か ら

### ◆お詫び

311号 (10月号) 12ページ「大塚司

教の10月のスケジュール」11日 (土) キーン師追悼ミサ 14時のと

ころ、間違って11時としました。

謹んでお詫びいたします。

## カ共同体堅信 (鈴鹿) 18時

24日 (振休) 玉造ミサ (パウロ会)

創立者列福)

25日 (火) 東京カトリック神学院

訪問 18時

26日 (水) 神学校 常任司教委員

会 9時 司祭全体集会 10時半

27日 (木) 司祭評議会 15時

司祭会 15時半

### 司祭の異動 (十月一日付)

#### A・タバモ師

京都南部東ブロック共同宣教司  
牧 協力司祭

三輪周平師 (レデンプトール会・  
大阪教区から転任)

京都北部舞鶴ブロック共同宣教  
司 牧 担当司祭

瀬戸高志師  
京都北部地区長

## 京都教区高校生会

高校生会は八月十一日から十  
三日まで網野教会にて合宿を行  
いました。

今回の合宿では「平和」につ  
いて皆で話し合い、神父さんに  
お話をもらいました。神父さ  
んの話を一方的に聞くだけ  
なく、それについて全員で意見  
を出し合い話し合いました。自  
分で考え、皆の意見を聞きなが  
ら神父さんの話や祈りについて  
じっくり考えたり深く読むとい  
うことは普段はなかなか出来な  
いことだと思うのでこのよう  
な時間を持つことが出来て良かつ  
たです。

夕の祈りなどにも平和に関係  
した歌を歌いました。あまり声  
が出ていなかつた気がしますが、  
よく考えると僕が一番出でていな  
かった気がしないでもあります。  
マザーテレサの祈りが歌になっ  
たものも歌いました。歌になる  
と、祈りを詠むときは違つた  
良さが出ていたように感じま  
す。

## 高校二年 坂西 遼

要理の時間は多めにあります  
たが、勉強という感じがあまり  
なく気楽にうまく学べたとい  
う感じでした。

参加人数は少なかったですが、  
ないかと僕は思っています。  
冬は、来年の一月四日から六  
日に冬の合宿を行う予定です。

たくさんの高校生が参加してくれると嬉しいです。話し合いも  
より充実したものになると思い  
ます。色々な意見を聞いたり、  
自分の意見をぶつけてみたりす  
るのも結構楽しいですよ。合宿  
の前には何度もミーティングを

します。合宿の内容を皆で決め  
るので、意見や案を出しに来て  
もらえば嬉しいです。教会か  
ら遠ざかってしまっている人で  
も、是非来てみてください。よ  
り知りたい方や、聞きたいこと  
がある方はいつでもどうぞ。お

問い合わせてください。ミーティングの日時

が決まりました。安心して  
い合宿ではないので、安心して  
待ちしています。

## 青年センターあんてな

す。

たものも歌いました。歌になる  
と、祈りを詠むときは違つた  
良さが出ていたように感じま  
す。また頭にもよく残つていま  
す。

(河原町教会)